

公表) 児童発達支援センターくるーる(保訪)における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター くるーる		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年12月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和7年1月4日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	園と良い関係が築けているので園との情報を共有しやすい。	療育で実際に使用しているものを園でも使用できるようにしている。	園でも取り入れやすい手立て等を検討し提案できるようにする。
2	保育所等訪問支援を実施する職員が固定している。	同じ職員が訪問するので園と連携が取りやすい。	職員間で情報共有し、どの職員も訪問支援を行えるようにする。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問を行う職員が固定している。	職員の負担が大きい。	職員同士で情報を共有し、どの職員も訪問支援を行えるようにしていく。
2	園や学校の先生と直接話ができる時間が少ないので、保育所等訪問の必要性が理解されない。	先生と情報を共有する時間が確保されていない。	保育所等訪問支援を行った後、改めて先生と話ができるようにし、先生からの理解を得られるようにしていく。園や学校でも取り入れられる方法を検討していく。
3			

公表) 児童発達支援センターくるーる における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター くるーる				公表日	令和7年3月24日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	16	2	・その子に合ったスケジュール等を持って行って使っている ・児発の療育で使用のものと同じものを使用することで児童が使用しやすかったり、療育⇒園で導入しやすいかなと思います。	ここに於いて必要な教材を作成しています。園や学校の先生とも話をしながら使用しやすいものになるように検討しています。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	18	0		希望の方は利用できるように、スタッフを配置しています。	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	18	0		日々支援の振り返りをしています。スタッフの業務上十分に時間が取れない日もあるため、効率よく業務を遂行できるように検討していきます。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	0		保護者の方からの評価はホームページ上で公表していますが、更に必要とされるサービスを提供するためにスタッフ研修の場などで活用していきたいと考えます。	
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	1		スタッフとは年に4回個別面談を実施しています。面談のタイミング以外でも、日常的に相談しやすい環境を整えることができるようにコミュニケーションをとっていきます。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	17	0	・園などからの評価で改善点などがあれば、確認したい	高梁市手をつなぐ親の会からの評価をいただいています。今後も、外部の方に積極的に事業所を見ていただき、客観的な評価を頂く機会を作りたいと思います。	
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17	0		定期的に研修の機会を作っています。パートスタッフはすべての研修には参加しづらい状況もありますので(特に業務後の研修)、講師とも相談し日中に研修を受けることができるように工夫していきます。	
	8	個々のお子様に対してアセスメントを適切に行い、お子様と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	17	0		「できた」「できなかった」だけではなく、どんなところに気づいているか、どんなことに興味をもつことができるかなど広い視点でアセスメントをとることができるように技術を高めたいと思います。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、お子様の支援に関わる職員が共通理解の下で、お子様の最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	4		どのスタッフも支援計画の内容について十分把握し、適切に支援できるように、スタッフが話し合いをできる時間の確保に努めます。	
適切な支援の提供	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	18	0	・訪問時だけでなく、送迎の際にも声掛けし、お子さんの様子を聞いたり伝えたりする関係性を作れたらと思います。	スクラム会議等で園や学校等の状況や課題を共有しながら、支援計画を作成しています。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14	2		計画の進め方やお子様の成長の状況について共有することで、方向性にずれがないように話し合いの機会を更に強化していきます。	
	12	お子様の適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	0		定期的にとるアセスメントだけでなく、日常のお子様の様子から成長や課題を確認するようにしています。スタッフそれぞれの専門性を大切にアセスメントをしていき支援につなげていきます。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	17	0		・スタッフがガイドラインを常に確認できるように整えています。ガイドラインから逸れることのないようスタッフ間で確認できる機会を作っていきます。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	0		支援計画はスタッフ間で共有し、支援方法についても個々の考えに偏りがないように話し合いを重ねるようにしています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	0	・行くときの園での内容を事前に聞いてそのときにあった支援方法を相談して行っている	支援の前にはスタッフで支援の内容を確認しています。どのスタッフでも同じように支援を提供できるようにスキルアップに努めています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17	0	・できるように努力しているが行事等で難しかったときも何度かあった	支援終了後に話をする時間をつくり、その日の振り返りと次回の取り組みについて検討しています。お子様の成長段階に合わせた支援内容のアイデアを出すことができるように話し合いをしています。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	17	0	・訪問先の思いと本院や保護者の望むところをすり合わせることは難しく、できていないなと思います。	訪問先の先生の支援に対する考え方も確認し、ここに必要な支援、園や学校で可能な支援を一緒に検討しています。	
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	17	0		連絡ノートに加え、支援記録を整えています。記録することにとられすぎず、検証できる時間を充実にできるように時間配分を行っています。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	0		支援計画の期間の半期(2ヶ月空3ヶ月)で中間評価を行っています。中間の時点で達成できた場合は、計画の見直しを行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのお子様の状況をよく理解した者が参画しているか。	17	0		相談支援専門員とも情報共有を行い、ご家庭や所属団体の様子を確認しています。それぞれの状況を確認することで、優先すべき課題について一緒に整理していきます。
	21	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	0		高梁市内に専門の医療機関がないこともあり十分な連携が取れているとはいえない状況です。今後、リハビリの状況などを共有できるように連絡調整を強化していきます。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	0		就学前には、スクラム会議を実施し園と児童発達支援事業所、保健師等と今までの育ち、できるようにしたこと、特性などの共有をしています。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	17	0		研修は可能な範囲で参加し、常に新しい情報を獲得できるようにして行きます。どのスタッフも研修参加ができるよう配置上の工夫をしています。
	24	(自立支援)協議会子お子様部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	17	0		自立支援協議会 児童部会に参加しています。また、法人内のスタッフが子ども子育て会議にも参加しています。引き続き参加して行きます。
	25	日頃からお子様の状況を保護者と伝え合い、お子様の発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17	0		・訪問後に少し間が空いて様子を伝えてしまうことがあるなど反省しています。 送迎時や連絡ノートを活用してお子様の療育中の様子や成長を共有させていただいています。送迎サービスをご利用の方は、別の日に来所していただいています。ご家族と成長を共有できるように話し合いの機会を今後も作っていきます。
保護者等への説明等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	17	0		毎年ペアレントトレーニングを法人で実施しています。参加される人数が少ないため、今後広報に努めていきます。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	0		文章の多い書類については、わかりにくい点もあるため今後更に丁寧に説明を加えていきます。また、外国籍のご家族もおられるため説明の方法についても工夫していきます。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	14	2		・行なっているつもりでもこちらの目的や意図がうまく伝わっていないと感じることがあるので、どのように伝えていくかは考える必要があると思う。 見学ではなく個別支援であること、支援方法を共有することなどの目的を伝えるときに支援方法を一緒に検討することをお願いするようにしています。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、お子様や保護者の意思の尊重、お子様の最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、お子様や家族の意向を確認する機会を設けているか。	0	0		幼児期は特にご家族の意向を多く聞かせてもらっているのが現状です。お子様の嗜好や楽しみなども聞かせてもらいながらお子様が楽しみながら利用できるように工夫していきます。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	16	0		計画、評価の時にはご家族に確認をさせていただいています。日程を調整する時には、ご家族の生活の負担にならないように調整をして行きます。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	16	0		支援計画の評価、作成のタイミングではお話を聞かせていただいています。そのほかにもご家族の不安が軽減できるようにお声掛けできる機会を作っていきます。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6	1		法人が事務局となる親の会を開催しています。周知不足の面もあるため、チラシの配布や活動内容を具体的に伝えるなどの工夫をして行きます。きょうだいの会は開催できていないため、今後検討していきます。
	33	お子様や保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、お子様や保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	0	0		ご家族から相談を頂いたときには、日時を調整するようにしています。迅速に対応できていないことがあるためご家族からお話があった時にはできる限り早く調整できるようにしていきます。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をお子様や保護者に対して発信しているか。	14	2		毎月定期的に活動概要をHPやSNSに載せている。具体的な活動については不定期で、外出療育が多くなっている。普段の療育場面・訪問場面などのせていきたい。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	18	0		・事前にSNSに載せていいか確認している 連絡ノートの渡し間違いなどがなくダブルチェックをするようにしている。まだ、完全になくはないため確認を徹底していく。
訪問先施設への説明等	36	障害のあるお子様や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17	0		外国籍のご家族には翻訳のツールなどを活用し適切に伝えることができるように工夫していく。
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	17	0		訪問先の先生が集団の中で困っている支援等を確認しています。担当のお子様以外でお困りの場合は必要に応じて発達障害コーディネーターの紹介をしています。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	17	0		可能な範囲で訪問時に話し合いの時間をお願ひしています。業務的に難しい場合はその後電話等でやり取りをしています。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	17	0		・直接保護者へ伝えている 訪問後は電話や来所等で訪問時のお子様の様子や行った支援について伝えています。
40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	0		集団の場であることから、他のお子様の個人情報にも十分留意するようにしています。	

	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	15	0		こちらの思いを伝えるだけでなく、園や学校で必要とされている支援方法のアドバイスができるように、話し合いを大切にしています。その上で個々のお子様の特性を適切に理解してもらえようように助言しています。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17	0		家族にマニュアルの周知はできていない。訓練を実施した際には、連絡ノートなどで報告している。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17	0		安全計画についてスタッフに十分周知できるように掲示場所等を検討していく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	18	0		担当者会議で共有したヒヤリハットを各スタッフに周知し、他事業所でも同じようなことが起きないようにしている。今後も継続して行っていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	18	0		虐待をできるだけ未然に防ぐために研修を継続して行く。また、スタッフが利用者に対して虐待をすることのないよう、日常的にスタッフ間でコミュニケーションを取っていくようにする。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、お子様や保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	18	0		身体拘束はせず、適切な支援で対応できるように最大限配慮するように心がけている。

自事業所の強みと感じる点	自事業所の弱みと感じる点
<ul style="list-style-type: none"> ・園の先生たちと情報共有を行ってその子に合わせた取り組みをしている ・訪問先の先生としっかり話し合う時間が有り、情報共有ができてきていると思う ・園での様子を訪問のスタッフがスタッフ間で共有してくれている ・クラスの担当者が行くことでセンターで行っている支援をスムーズに移行しやすい ・保護者やスタッフ間で共有しているところ、療育での出来事や園での出来事、家での出来事をよく話せている ・療育での支援を園でも実施できる ・色々な事業がある方を受け入れているところ(分け隔てなく困った方、助けが必要な方を受け入れている) ・相談できるスタッフがいること ・みんな子供が大好き 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育時間中に先生に時間をいただかないといけない ・訪問先との支援や保育の考えの違いがあり、進めにくさがある ・規模が大きくなるにつれ、受け入れる場所の確保が大変だと思ふ、結婚・出産で仕事を続けることができない人がいる ・訪問スタッフが少なく、固定スタッフであることで保護者への共有も特定のスタッフが行う。自分の視点だけをお伝えするのがが辛い ・男性スタッフが少ない
工夫しているところ	弱み・課題と感じている点の原因
<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに合ったスケジュール等を持って行き、活動に入りにくい時などに利用している ・園の困りごとなどの情報を共有し、療育でも同じような場面を設定し取り組んでいる ・色々なことに対応できるようにスケジュール等を持参している。イベントや行事をたくさん、利用者さんに楽しんでもらっているところ ・研修でパートも知識を得る機会がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく保育の妨げにならないよう気を付けているがその場で話した方が分かりやすいことがあり話すのに時間をとってしまう ・訪問先の受け入れ体制の違い ・市外での結婚、家庭との両立(勤務時間が厳しく、正職員になるのは難しさを感じる) ・体力のいる遊びが難しい
更に充実させるために必要なこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・園や学校の先生ともしっかり話しをして、その子に合った支援方法や園でも取り入れやすい方法を一緒に考え、園でも取り組んで行けるようにしていく ・勤務体制にもよるが利用時の前日に訪問に行き、翌日に振り返りをする。 ・訪問支援の目的、必要性を学校や園に伝えていく、支援を共有していくことで子どもたちがどこでも生活しやすくなるよう他機関との連携を強化していく ・さらに十分な情報共有ができるよう話し合いの場が増えるといい ・事前に訪問先と話し合いをする、園での困りごとを聞く ・1人1人ができることを増やす、職員の家族ぐるみのイベントにしていく、市内で良い人が見つければ職員の仕事も楽になる 	